

第1回 御影公民館及び清水消防署御影分遣所建設町民検討委員会開催報告

開催日時: 令和8年6月 29 日(月) 19 時 00 分～20 時 30 分

開催場所: 世代間交流センター

出席委員 :

細田委員長、赤堀副委員長、菅野委員、山方委員、五十嵐委員、川端委員、永田委員、後木委員、長谷川委員、大久保委員、宮間委員

辻町長、山下教育長

事務局 :

御影支所 太田支所長(事務局長)、吉田次長(事務局庶務)、大津主査

清水消防署 三好署長(事務局次長)、横山御影分遣所長、山川庶務担当主幹

企画課 鈴木課長

建設課 山田課長、小笠原課長補佐、野口建築係長

コーディネーター: 株式会社 KITABA 酒本、品田

傍聴人 : 4人

【第1回】 御影公民館及び清水消防署御影分遣所建設町民検討委員会開催

開催日時: 令和8年6月 29 日(月) 19 時開会

開催場所: 世代間交流センター

1 開 会

事務局 庶務 吉田

2 清水町長挨拶

辻 康 裕

御影公民館及び清水消防署御影分遣所においては、これまで地域の方々が集う場所として、また、地域の防災を担う中心施設として機能を果たしてきましたが、建築以来 50 年を経過し、老朽化とともに耐震性の課題があり建替えの必要性が寄せられておりました。

これまで町としましては、御影公民館より先に建築されました清水町体育館の改築を優先して検討してきたところですが、近年の酷暑の問題や災害時における避難所の確保という視点から御影地区の重要な防災拠点となる御影公民館及び清水消防署御影分遣所を優先して整備すべきと考えました。

この検討委員会においては、人口減少社会を迎え、財政バランスを意識しながら、既存の農村環境改善センターや世代間交流センターを含めた将来の御影地区にあった施設となるよう、施設の規模や建築方法、建設の場所など委員皆様の意見をいただきたい。

3 委員自己紹介及び委嘱状の交付

町長より委嘱状交付

4 委員長・副委員長選出

町民検討委員会設置要綱第3条2に基づき、「委員会には委員長及び副委員長を置き委員の互選により選出すると規定。

事務局案の提示)

この度の検討委員会は、施設の建替えのみならず、今後の御影の地域づくりをどう考えていくかも重要な協議事項となることから、委員長に、御影地域づくり推進協議会会長 細田秀夫、清水消防署御影分遣所の建替えの分野から専門的知識と経験のある副委員長に、清水町御影消防団 赤堀浩二を提案。

<承認>

以後、本委員会の招集及び議長に関しては、委員長が担う。

5 事務局及びコーディネーター紹介

- ・事務局紹介（事務局名簿のとおり）
- ・コーディネーター 株式会社 KITABA 紹介

6 議 題

（事務局）

検討委員には、御影地区にある公共施設の活用見直しを含めた中で、施設の耐用年数を過ぎた、御影公民館及び清水消防署御影分遣所建替えに伴う基本構想・基本計画の策定までを担っていただく旨を説明。

【建替対象(建築基準法による「新耐震基準」を満たしていない建物/耐用年数 50 年)】

- ①昭和 48 年取得 御影公民館
- ②昭和 49 年取得 清水消防署御影分遣所

【その他(耐用年数 47 年)】 R4.3 策定の清水町個別施設計画において R12 まで現状維持

- ③昭和 60 年取得 農村環境改善センター
- ④平成 3 年取得 世代間交流センター

御影地区の住民の生命と財産を守る防災の拠点であるこの2つの施設建替え検討をきっかけとして、単なる施設の建替え検討ではなく、人口減少・少子高齢化時代にどう向き合っていくか、将来の御影の町づくりにも直結するものとなる。

本計画については、第6期清水町総合計画後期計画策定に携わり、清水町の今後のビジョンについても熟知している株式会社 KITABA に、基本構想・基本設計策定までのコーディネートをお願いした旨の説明。

以降 資料説明 コーディネーター

(1) 検討にあたり

- ①「基本構想」の検討
- ②事業スケジュール(案)
- ③検討委員会のスケジュール(案)

(2) 御影地区の概要

(3) 清水町の財政

(4) 御影地区の公共施設の概要

(5) 複合施設の事例

(1)から(5)別紙検討委員会資料により説明

7 意見交換

各委員より

(委員)

・資料 15 ページに耐用年数に関する記載があるが、「清水町世代間交流センター」や「農村環境改善センター」などの耐用年数をまだ経過していない施設は、実際、あとどのくらい利用することができるのか。

(事務局・コーディネーター)

・施設の詳細な調査を実施していないため、具体的な年数をお示しすることは難しいものの、建築から年数が経過するほど、メンテナンスに費用が多くかかることが考えられる。

(委員)

・資料 16 ページの小清水町の事例では、民間企業との連携がみられるが、利用料金などのやりとりがあるのか。

(事務局・コーディネーター)

・公共施設のテナントとして、民間企業が利用していることが考えられ、民間企業から行政に対して利用料金が支払われていると考えられる。

(委員)

・資料 11 ページの公債費は、現在がピークと考えてよいのか。

(事務局・コーディネーター)

・今後の町の事業内容などによって、ピークは変動すると考えられる。また他市町村では、ピークをならすことも検討している。

(委員)

・予算との兼ね合いもあると思うが、10 年後に利用することが難しい施設もあるのであれば、それらの機能も含めた施設の検討を行いたい。また、分遣所の機能を入れるのであれば、雨の日にも屋内で訓練することができることが望ましく、かつそれに伴って、利用することができない住民などがいないようにする必要がある。

(委員)

・まだ耐用年数を迎えていない「清水町世代間交流センター」や「農村環境改善センター」の機能も踏まえた整備を行い、それらが耐用年数を迎えた際に新たな整備が必要ないようにする必要があるのでないか。

・今後、様々な検討や調整を行うために時間が必要になるが、その間にも人口減少が進んでいくことも含めて考えていきたい。

(委員)

・分遣所として、消防車両の台数など、必要な機能や規模の整理を進めていきたい。

(委員)

・清水町としての御影地区の方向性を明確にしていきたい。例えば、子育てしやすいまちなどが考えられると思う。

・子育てでは、現在子どもを遊ばせるために、芽室町や新得町に行き、そこで食事や買い物を済ませて御影地区に戻ってきている。冬は遊ぶことが難しい。

・現在、御影地区には、フットサルに関わる若い移住者が多く、その移住者の特徴からも、子育てに力を入れることは良いのではないかと。また、このフットサルは、昨年度の試合でよつ葉アリーナの駐車場を満車にしており、文化としても定着しつつある。

(事務局・コーディネーター)

・最新の国勢調査で人口が増えている市町村は、子育て世代向けの取組に力を入れているところが多くみられる。

(委員)

・過去、清水地区に整備した施設は、御影地区にも整備されていた。しかし、今後は清水地区と御影地区の間の交通手段を充実させるなどし、同様の機能や同等の機能を持った施設の整備は慎重になるべきではないかと。

(事務局・コーディネーター)

・市町村合併のあった地域では、そのような現状がみられる。持続可能な行財政を実現するためには、慎重になる必要がある。

(委員)

・移住や子育て支援の補助金に関する施策はあるものの、世帯年収などの制約があるものがあり、まだ移住や子育て支援の余地がある。

・他市町村の事例を参考にしつつ、今後の清水町の政策や人口規模を踏まえた検討が必要である。

・現在の施設の利用率も踏まえた整備を行う必要がある。

・周辺市町村から来訪者を集めることも考えられるが、現実的にそれが難しいのであれば、町民のニーズがしっかり反映された施設である必要がある。

・今後の検討が、予算を踏まえた検討なのか、機能の導入を前提にした検討なのかが気になる。

(事務局・コーディネーター)

・周辺市町村を踏まえた、御影地区らしさを考える必要がある。他市町村では、カフェの運営を住民が行うなどの事例があり、運営方法でも住民の参画など、御影地区らしさを取り入れていくことができるとよい。

(委員)

・子育てをする中で、天気が悪い日に室内で遊ぶことができる場所があるとよい。また、食事などのその他の必要な機能が施設の中で完結することが望ましく、周辺市町村からの集客効果もあると考えられ、経済効果もあるのではないかと。

・機能として、カフェの導入などに加えて、町内のイベントの実施やキッチンカーの誘致なども踏まえた施設整備が行われるとよい。

(委員)

- ・10 年前の台風を思い出すと、災害対策を踏まえた施設整備が重要になると考える。

(委員)

・子育て世代が土日に近場で楽しむことができる施設になるとよいのではないかと。また、それにあわせて、御影地区の事業者とも連携しながら、稼ぐことができる機能を導入することができるとうい。

- ・清水町には温泉などはあるのか。

(事務局・コーディネーター)

- ・公衆浴場が清水駅周辺に1箇所ある。

(委員)

- ・その公衆浴場は古いものなのか。以前利用しようとした際は利用することができなかった。

(事務局・コーディネーター)

・30 年程度前に整備された施設だったと記憶している。設備の更新などで利用できない時期だった可能性が高い。

(委員)

・浴場に限らず、御影地区は車で 10 分程度で清水地区や芽室町、新得町に行くことができることを踏まえた整備が必要になるのではないかと。

(委員)

・資料6ページの人口推移について、35 年間で 100 人程度しか人口が減っていない理由として、団地造成があげられるが、今後団地造成が行われるのか。

(町長)

- ・団地造成は行われないことが想定される。

(委員)

・現在、御影支所が管轄する地域に住んでいる人口は陸別町よりも多く、少人数で多くの業務を御影支所が担っている。また、1 人暮らしのお年寄りなど、何かあったら御影支所に集まる人が多いため、そのような機能を大切にしていきたいと、さらに災害の時などにみんなが避難することができる機能が最低限でも必要と考えている。

(委員)

・町内外のどこからの集客や利用者を見込むのかによって、機能や予算規模が変わってくるのではないかと。

・周辺市町村でも、これまでの話題にあった子育て世代が利用するような施設の整備が検討されており、それらとバッティングすることも考えられる。それを踏まえると、周辺市町村からの集客ではなく、町内のニーズに対応した施設整備を行いつつ、予算規模を抑えることも考えられる。

(委員)

・子育て世代向けの施設を整備するのであれば、芽室町や新得町の子育て世代向けの施設状況も踏まえて、検討していく必要がある。また、せっかく整備するのであれば、利用されていく整備を行っていききたい。

8 その他・連絡事項

な し

9 閉会